

## 夕公演司会資料セット

### ○ご神前の舞

御神前之舞には、奉幣之舞、榊之舞、剣之舞、末広之舞、弓之舞、竿之舞、相生之舞の七座があり、それぞれの舞に祈祷の意味が籠められています。

ご神前之舞は、主に神社の祭礼の式典の中で、祭司である宮司の祝詞奏上のあとに神楽鈴と採り物を持ち、神楽面を付けず素面で舞われています。

現在は、七座全てを神社で奉納することは殆どありません。

最近は奉幣之舞、末広之舞、剣之舞の三座を舞うことが多いのですが、時間の関係で一座のみ奉納、という事例もありました。

この御神前之舞が神楽殿で行う里神楽の舞の基本となっています。

相模の里神楽にとって、ご神前之舞は原点となっています。

ただいまより、七座の中で、最も代表的な「奉幣之舞」をご覧頂きます。

以前、神楽の開始前には、家元が神楽殿で「神拝祝詞」を奏上したあと、素面で「奉幣之舞」を舞っていました。江戸時代の神事舞の名残りと理解されています。

### ○紅葉狩

ただいまより、新作面芝居「紅葉狩」をご披露します。

戸隠山に住む美しい姫・更科姫が侍女たちを連れて、山の紅葉を愛でようと酒宴を催していました。

その酒席の宴のすぐ近くを、鬼女討伐の命令を受けた平維茂の一行が通りかかります。

維茂は、酒宴に気が付き、近づかぬようと道を避けようとしていますが、維茂一行に気づいた女たちが「是非ご一緒に宴に参加しませんか」と誘います。

維茂一行は、誘われるがまま更科姫が催す宴に加わることになりました。

高貴な風情の姫はこの世の者とは思えぬ美しさ。すぐに心を奪われてしまう維茂とその一行。

美女に酒を勧められ、つい気を許した維茂とその家来たちは酔いつぶれ、不覚にも眠ってしまいます。

それを見届けた姫たちは、本性を現し、いざこにか姿を消してしまいます。

深く眠る維茂とその家来。そこに、八幡大神の命を受けた山神が維茂の夢に現れます。

実は維茂とその家来を接待し、酒を飲ませ、眠りに誘った美しい姫たちは、「戸隠山の鬼女」であることを告げました。

八幡大神からの下された神剣（こがらす丸）を維茂に授けて、山神は姿を隠します。

さて、夢から覚めた維茂は「夢のお告げ」で、姫たちが鬼女であることを気づき、

授かった靈剣こがらす丸を握り締め、鬼女を追いかけます。圧倒的な魔力で襲いかかってくる鬼女を前に、維茂は勇敢に立ち向かい、激しい戦いの末、見事に鬼女を退治しました。

なお、こがらす丸は平家の家宝だと伝えられている名刀です。

### ○新作神楽「根国試練（ねのくにしれん）

大国主命といえば、島根県、出雲大社に祀られる有名な神様です。国造りの神、農業神、商業神として崇められる偉大な神様です。

しかし、青年期の彼はまだ物腰の柔らかな優しい、どちらかといえば弱い神様で、八人兄弟の末っ子だったと言われています。

度々、兄達に殺されそうになり、とうとう天照大御神の弟、建速須佐之男命を頼って根の国に降り立ったのでした。

舞台はその根の国から始まります。建速須佐之男命の娘で才色兼備の須勢理姫と根の国に逃げてきた若き大国主命が、互いに恋に落ちます。一目惚れです。

しかし、父親である建速須佐之男命は結婚に猛反対。そこで若者に困難な試練を与え、乗り越えたら二人の結婚を許すことにしました。

機転の利く須勢理姫の力と根の国に住む、鼠の助けにより、最終的に与えられた試練を若者は突破することができました。

建速須佐之男命は大層感心し、二人の結婚を承諾することにしました。

若き二人の前途を祝う宴の席で深酒をして、眠った須佐之男命。

最大のチャンスがやってきました。二人は、気付かれないように、静かに建速須佐之男命が持つ太刀、弓矢、琴を奪って、御殿を後にし、出雲を目指します。

眠りから覚め、気がつくと大事な宝を娘夫婦に奪われた建速須佐之男命。怒りがこみ上げますが、そこは親心。二人のこれからの大

来を大いに応援し、若者に「大国主」という名を与え、根の国から二人を見送ったのでした。

沢山の試練を乗り越え、聰明な須勢理姫に導かれながら、建速須佐之男命の愛によって成長していく若き日の大国主命、とても幸せで明るいお神楽の物語となっています。

なお、鼠は、大国主命のお使いとして、よく一緒に描かれています。

### ○「御祝儀三舞～寿獅子と大黒天と両面～」

獅子は大陸から渡來した神様です。獅子の靈力が幸せを運ぶとされています。

また、厄を払う力があるとされています。人々を祝福して演じられる獅子舞なので、寿獅子舞と呼んでいます。

獅子は伊勢で太神楽として発展し、江戸までやってきました。そして、江戸でお座敷芸としての獅子舞が確立したようです。

また、七福神の一人として有名な大黒天は、大変縁起のよい神様です。

そこに両面と呼ばれる、これもお座敷で人気を博した踊りが加わり、大変賑やかな演目となっています。江戸のお座敷芸を舞台芸になるように工夫して舞台に出してきます。どうぞ、お楽しみにしてください。